

第 23 回 一般社団法人日本生物物理学会 講師派遣事業 開催報告

| | |
|----------|---|
| 開催日 | 2021 年 7 月 6 日 |
| 学校名 (場所) | 東京都立新宿高校 |
| 授業の名称 | 微生物が好きな方向に泳ぐしくみ |
| 講師名 | 若林 憲一 氏 (東京工業大学科学技術創成研究院化学生命科学研究所 准教授) |
| 参加者 | 1 年 4 人・2 年 315 人・3 年 2 人 |
| 生徒さんの感想 | <ul style="list-style-type: none"> ・目で見ていても分からないような微生物が実際に動いているという場面を見ると、不思議な気持ちになりました。クラミドモナスが繊毛を使って泳いでいるところや、光のあたり方によって動く向きが変化したり、一瞬止まったりするところを見て、生物の仕組みはすごいなと改めて感じました。今、この感想を書いている間にも、私の体では同じようなことが起きているのだと思うと、生物への興味がさらに湧いてきました。目の見えない方や筋肉の動かない方が、見える・動けるようになることや、逆に繊毛の不活動によって病気になったり不妊につながることを知り、“私”という存在は様々な細胞などが絡み合っていてできているのだと実感しました。 ・大学の授業の内容は難しそうだと思っていたが、講義を受けてみたら先生の説明はわかりやすく理解しやすかったので興味が持てた。クラミドモナスについて何も知らなかったが、今日の講義で動く様子やべん毛の形、眼点のことなど、多くのことを知ることができた。今は人の役に立つつもりはなくても、10 年後くらいに自分のしたことが誰かの役に立っていたら良い、という先生の考え方は、自由に、純粋に研究を楽しんでいる感じがして素敵だなと思った。 ・私は文系志望で、芸術系の仕事をしたいと思っているので、研究の仕事とはかけ離れていると思っていたのですが、お話を聞いて、自分の体にも相当関係していると知り、興味が湧きました。光驚動反応の映像がとても印象に残っています。ドキッとしてドルフィンキックで後ずさりするシステムは凄いなと感じました。そして、先生の研究のお話を聞いて、疑問をもってそれを突きつめる仕事ってものすごくかっこいいなと思いました。 |



講義後の質疑応答



講義後、希望者を対象とした観察会



クラミドモナスやボルボックスを顕微鏡で観察し、スマートフォンで撮影